

明治天皇と陸軍特別大演習

【その2】

大演習当日は 小学生も送迎・見学

荒木停車場から稲荷山までの道沿いには、各界・各団体に混じって、各小学校の児童も送迎と見学に出向きました。

『特別大演習福岡縣記録』によると、上広川尋常小学校と水原尋常小学校は4年生以上、中広川尋常小学校は3年生以上、下広川尋常小学校と広川高等小学校は全校生徒が拝観した、とあります。『下広川小学校百周年記念誌』にも、

何日も前から毎日毎日、相川の四ツ角の西側の何百米かの道路沿いの田んぼに整列して奉迎の予行をさせられた。校長が先生達を従えて自転車で通るのを（行幸の列に見立てて）、目迎目送の練習だった

などであり、見学に参加した児童たちには強い記憶が残ったようです。

下広川村役場の『収支計算簿』には、当条に設けられた下広川村役場の演習出張事務所の日誌が綴られており、

十一月五日、軍隊納入品鶏十斤半（6・3キログラム）・

味噌十三貫（48・75キログラム）・藁三十五貫（1331・25キログラム）徴発

とあります。ちなみに牟礼の出張事務所日誌には、

十一月五日、軍隊宿舎ノ通報二依リ即刻出張シ、宿舎二付キ協議ヲナシタル上、宿舎戸数ヲ定ム

などであり、天皇行幸の10日ほど前からすでに準備が始まっていたことが分かります。

『特別大演習福岡縣記録』には、第六師団（十八師田と組んで南軍を構成）の野砲第六連隊が川瀬付近を宿営としたことや、川瀬に設けた集積所に、軍用糧秣として2日分の精米、大麦、干草が集められたことも記されています。

大本営では 九州各県物産展覧の催しも

県立中学明善校（現県立明善高等学校）に置かれた大本営では、天皇が九州各県の物産をご覧になれるよう、物産展が催されています。

福岡県からは、博多織や博多人形、久留米餅、高取焼の

ほか、農産物なども出品。現在の広川町関係では、坂田伝吉（上広川村）、山下喜次郎（中広川村）、松本喜太郎（下広川村）の3人が久留米餅を、丸山林作（中広川村）が黒砂糖を出品しています。天皇がご覧になるということで、当事者は2か月以上も前から準備などで大変だったようです。

稲荷山の御野立所跡は昭和8年、史蹟名勝天然記念物保存法（文化財保護法の前身の一つ）による史蹟になりました。しかし同23年6月29日付で、それまで県下に数多くあった、旧法に基づく皇室関係の指定史蹟は解除されます。稲荷山御野立所跡も、かつての指定標示石柱が残るのみです。



明治44年、陸軍特別大演習での天皇統監の様子

広川町古墳資料館だより

全国の博物館では、外国人見物者のための多言語パンフレットを作成しています。当資料館でも、教育委員会や文化財専門委員会の皆様のご協力の下、英語版の説明資料を作成しました。魅力的な広川町古墳を、正しく世界に発信しようという試みです。作成時は、

- ①歴史資料館としての情報の正確さ
- ②八女古墳群の歴史的記述の正確さ
- ③写真を入れる

などに留意。外国人の皆さんが、より正しい内容で広川町の古墳を理解することができるようになりました。

ほかの言語版は、後日作成する予定です。



ひろかわSDGsプロジェクト

SDGs: 目標2 「飢餓をゼロに」

達成のために広川で頑張っている人 → フードバンク活動をしている人

安売りだったから買いすぎた食品。いただきものだけど食べる予定のないお菓子。消費しきれず、結局ゴミ箱にってしまった「もったいない」経験はありませんか？ ささまざまな理由で消費しきれない食料を、必要としている人につなぐ活動がフードバンクです。「もったいない」を「ありがとう」に変える活動と言

われます。野菜などを作っている家庭が多い広川町では「おすそわけ」の文化はおなじみですよ。広川町の場合、ご近所さんの枠を超えた「おすそわけ」だと思いと理解しやすいかもしれません。

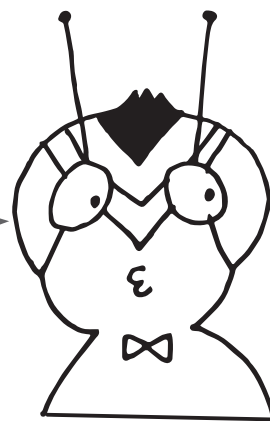
広川町でもフードバンク活動を積極的にしている人がいると聞きました。あなたも参加しませんか？



世界では約9人に1人が飢餓に苦しんでいます。「人口が増えすぎたため、食料が不足して飢餓が起きている」と勘違いしている人が多くいますが、食料生産は全世界人口のお腹を満たすのに十分な量があります。

飢餓がなくなる原因はさまざまですが、その一つにフードロスの問題があります。不名誉なことに、日本は世界で最下位(一人あたりの食料廃棄量1位)です。国連が1年間に実施する食料援助量の約2倍の食品を毎年廃棄しています。

自分にできることから行動してみませんか？



SDGsマン

より深く知るために、次のようなキーワードで検索してみましょう。

広川文芸

広川短歌会

復興の手と手を繋ぎ痛みいて令和言祝ぐ日本列島		思い出はよみがえりくる心友のほほえむ遺影 なおいとおしき		たつぷりと墨をふくませ大筆に「令和」と書きぬ はじまりの朝		子どもらの賑やかな声溢れて初夏をいろどる水辺の公園		「諸君」の「皆さん」となる平成はついに終りぬ明日より令和		舟小屋の楠に向かい深呼吸 子らと遊びし遠き思い出		届きたる封書開ければひらひらと紙の桜が膝に舞ひ落つ		坂三つ越えて茶店のさくら餅 二個ずつ食ぶる難波の友と		集いたる一人暮らしの食事会 平成最後日手料理の味		思ひ出は涙を誘ふちははと笑ひ合ひたるワンシーンさへ		叱らるることもなければ褒めらるることもないのだ年経るとふは		いま更に何を願はむあるがまま運にまかせて穏しく生きむ	
姫野 洋子		蓮子 住雄		青木佳代子		野中 勝美		高橋 和子		中川原勝代		原 千恵子		美座 時朗		結束 節子		鹿田 恵		山下 整子		野中ヨシ子	